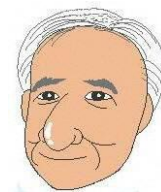


養父市長 ひろせ栄政策綱領はどんだけ進んどんん！？(9/10)

挑戦からしあわせへ

養父市の未来も懐かしさにある

《4期目の市長の自己評価》Ⅰ



■ はじめに

4期目の市政運営を担って1年10ヶ月、1期から通算13年10ヶ月が経過しました。現在、新型コロナウイルス感染症に関して養父市では、12人に一人の感染状況で、不安な状況にあります。全国的な収束を見るまで「新しい生活スタイル」が求められます。感染対策に、市民の皆さまにご協力頂いていますこと、改めて感謝申し上げます。

今回の政策綱領自己評価は、「養父市創生総合戦略」「国家戦略特区」に加え、「第2次養父市総合計画」の評価・実績と単位施策の関連性に基づき集計・分析致しました。

令和2年度まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略の評価については、令和2年9月23日付で報告のあった「まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略検証委員会」の検証結果報告を踏まえて以下のとおりとします。

令和元年度末の人口は23,087人（住民基本台帳ベース）で、その前年度と比較して423人の減となり人口減少が進んでいます。また、まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略は第1期の5年間の終期を迎えますが、人口減少の抑制に至っておらず、様々な課題も見えています。各施策の見直しと改善を図りつつ、令和3年度からの第2期戦略の策定と新たな「養父市まちづくり計画（仮称）」の取組に生かします。人口減少に対し効果性の高い施策に注力するとともに、人口減少下での暮らしを想定した施策に取り組みます。そのため、職員が一丸となり、市民の皆様をはじめ関係者とともに、持続可能な豊かな暮らし・地方創生の実現をめざします。

■ 創生総合戦略の実績

基本目標	指標	数値目標 (R1)	実績 (R2) ※ () R1
① “住みたいまち” に	社会増減	▼100人	▼161人 (▼181人)
② “チャレンジできるまち” に	・雇用創出数 ・起業・創業件数	40人/年 10件/年	14人(48人) 4件(9件)
③ “子育てしたいまち” に	出生数	154人/年	119人 (128人)
④ “健康長寿のまち” に	介護を必要としない人の年齢	85歳	84.14歳 (83.62歳)

■ 創生総合戦略の評価（R2 年度評価）

基本目標	A	B	C
① “住みたいまち” に	4	4	2
② “チャレンジできるまち” に	2	9	2
③ “子育てしたいまち” に	5	6	0
④ “健康長寿のまち” に	3	7	0
合計（44指標）	14	26	4

■ 令和3年度国家戦略特区の経過と実績





規制改革メニュー		実績と進捗状況の例（R3年度）
1	農業委員会と市町村の事務分担	許可申請件数 36 件＜参考＞R2 年度：39 件
2	農業生産法人の要件緩和	総営農面積約 69.0ha ＜参考＞R2 年度：61.4ha 特区事業者による大規模プロジェクトが始動 雇用状況 確認中 ＜参考＞R1 年度：95 人 ※平成 28 年 4 月 1 日から全国展開
3	企業による農地取得の特例（農地法の特例）	企業の農地取得状況特例を活用した企業の農地取得面積合計約 1.65ha（R4.3.31 時点）
4	農業への信用保証制度の適用	融資総額：のべ 1 億 5,200 万円（R3 年度） ※平成 30 年 7 月 1 日から全国展開
5	農家レストランの農業地区域内設置容認	※令和 2 年 4 月 1 日から全国展開
6	歴史的建築物に関する旅館業法の特例	「大屋大杉」の利用状況宿泊者数 R2 年度：125 人（10.4 人/月） ※平成 30 年 6 月 15 日から全国展開
7	高齢者等の雇用の安定等に関する法律の特例	養父市シルバー人材センター会員（派遣）の就労状況 ○会員の最大 1 週間実労働時間 38 時間（R2 年度：33 時間） ○週 20 時間以上就労した会員数 10 人（R2 年度：16 人） ※平成 28 年 4 月 1 日から全国展開
8	NPO 法人の設立手続きの迅速化に係る特定非営利活動促進法の特例	養父市での実績設立件数：1 件 ※NPO 法人養父市マイカー運送ネットワーク ※令和 3 年 6 月 9 日から全国展開
9	過疎地域等での自家用自動車の活用拡大（道路運送法の特例）	「やぶくる（自家用有償観光旅客等運送事業）」の利用状況：○利用件数 425 件（R4.3.31 時点） ＜参考＞ R2 年度利用件数：465 件
10	テレビ電話による服薬指導の特例（医薬品医療機器法の特例）	令和 2 年 4 月 10 日から厚生労働省通知により新型コロナウイルスに係る時限措置の特例として全国展開、令和 4 年 4 月 1 日から法改正により恒久的に全国展開





■ 第2次養父市総合計画の進捗状況（R2 年度実績）

40 指標のうち、12 指標（30%）で 10 年後の目標値を、7 指標（17.5%）で 5 年後の目標値を達成し、6 指標（15%）で策定時以上の数値となっています。

以上から、5 年後の目標値を超えるものは 19 指標（47.5%）、策定時から数値の伸びが見られる指標を含めると 25 指標（62.5%）となり、指標からは概ね進展を見ることができました。

令和3年度に策定した「養父市まちづくり計画」では、進捗状況が把握可能な、定量的な指標を設定致しました。

5つの柱				
① 「生きる力」を生涯学ぶまち	3	0	1	4
② 人と自然と文化を活かし、多くの人を訪れるまち	2	0	2	4
③ 赤ちゃんからお年寄りまで、安心して暮らせるまち	2	2	2	2
④ 意欲を持って働き、未来を拓くまち	5	3	0	0
⑤ 互いに協力し、支えあうまち	0	2	1	5
合計（40 指標）	12	7	6	15

	10 年後目標値達成		5 年後目標値達成		策定時以上		未達成 測定不能
--	------------	--	-----------	--	-------	--	-------------

市制 18 年が経過し、合併算定による地方交付税が漸次縮減される中、不断の行政改革によって、財政の健全化（令和3年度：実質公債費比率；7.4%）が達成されたとはいえ、新型コロナウイルス感染症拡大防止・ウクライナ紛争の影響もあり、市政運営は以前にもまして厳しい状況であることには変わりはありません。「国家戦略特別区域」指定から 8 年、養父市は、休耕田・耕作放棄地の再生、農地の流動化の促進、農業生産法人の設立、企業による農地取得など、中山間地域農業のモデルとして徐々に効果が表れているほか、テレビ電話による服薬指導や“やぶくろ”、農家レストランなど、農業関連以外の分野の規制緩和にも取り組みを広がっています。さらに、新たな規制緩和も提案中です。今後は、国家戦略特区事業の効果や利益が地域へ還元され、市民が実感出来るよう、進展させなくてはなりません。

また、SDGs の先駆的な取り組みとして、2012 年よりオフセット・クレジット（J-VER）を進め、2012 年から 2022 年 8 月の 11 年間で、延べ 98 社に、7,546 t -CO₂ を販売し、8,007 t -CO₂ 環境省の認証（森林 278ha）の内残り 461 t -CO₂ となりました。今後の課題は、新たな吸収量を生み出す森林選定です。

市が抱える大きな課題は少子化と若者の流出です。この課題解決に向け、行政と市民の問題意識共有と、市を挙げての取り組みが必要です。

少子化が、人口減少の根本的原因であることに鑑み、引き続き「地域の新たな生命を育むまち：産業を育み・人を育む」を政策方針とし、「住んでみたい、住んでよかったと思えるまちづくり」と「市民と一緒に作るまちづくり」を二つの基本政策とし、実現に向けて、「養父市創生総合戦略」「第2次総合計画」との整合性を図りながら、精力的に施策展開を図ってまいりました。

～生命に向き合い、国家戦略特区を活かした～

地域の新たな生命(いのち)を育むまち：産業を育み 人を育む」

ひろせ栄政策綱領（選挙公約）に掲げた2つの柱の進み具合を取りまとめました。4期の施策検証結果を広く市民の皆さまにお伝えいたします。

■ 総合評価：80点となりました。

■ 政策綱領の継続的評価

政策綱領は、「養父市まちづくり計画」「国家戦略特区の経過と実績」の指標を基準とし、総合的に評価します。

■ 政策綱領の継続的見直し

今後の変化やリスクに的確に対応し、不易流行の視点を基に持続可能な行政サービスを提供していくため、継続的に見直し致します。

■ 「養父市まちづくり計画（2021年10月策定）」体系

「養父市まちづくり計画」

やぶ 2050～居空間構想～

社会変革を生み出す新たな結いの創出

2030年の養父市（将来像）

豊かで持続可能なスマートヴィレッジの共創

まちづくり宣言

日本一農業
しやすいまち

日本一子育て
しやすいまち

日本一福祉が
充実したまち

令和4年度施策別主要事業

市民

柱1「市民」アクティブに自分らしく暮らすまち

施策2 生涯健康的に暮らすことができる環境（健康福祉）

- 関宮地域小さな拠点整備事業（拡充） 予算額 70,000 千円
- ホームヘルパー等介護人材資格取得補助事業（新規） 予算額 2,500 千円
- 高齢者補聴器購入助成事業（新規） 予算額 1,800 千円

施策3 学びあふれる教育（教育）

- 教育のあり方検討事業（新規） 予算額 1,630 千円

施策4 心を豊かにする文化芸術（教養）

- 文化会館・ホール運営事業 文化芸術推進事業（拡充） 予算額 45,118 千円
- 図書整備事業（拡充） 予算額 33,423 千円

地域

柱2「地域」つながりを力に、開かれたコミュニティがあるまち

施策1 つながりが支える子育て環境（子育て）

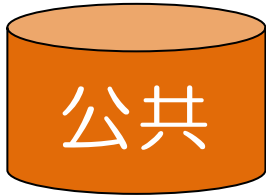
- 子ども第三の居場所事業（新規） 予算額 73,000 千円

施策3 次代を拓く農林業の推進（農林業）

- スマート農業推進事業（新規） 予算額 15,300 千円
- 人と環境にやさしい農業戦略事業（新規） 予算額 20,000 千円

施策4 多彩な人々によって創出される地域資源（観光・交流）

- おおやアート村拠点施設管理事業（拡充） 予算額 11,846 千円
- サイクルツーリズム促進事業（新規） 予算額 3,100 千円
- 名草神社保存修理工事完成イベント事業（新規） 予算額 4,000 千円



柱3「公共」様々な「公共」（主体）が地域をゆたかにするまち

施策1 地域の価値を生かした仕事づくり（価値創造）

- 養父市版ワーケーション推進事業（新規） 予算額 3,165 千円

施策2 デジタル技術の積極的な推進（情報社会）

- 居空間構想推進事業（新規） 予算額 36,000 千円
- ドローンフィールド拠点整備事業（新規） 予算額 15,000 千円
- 自治体DX推進事業（新規） 予算額 8,355 千円

施策4 安全安心なまちづくりの推進（生活基盤）

- 防災・災害対策事業（拡充） 予算額 33,031 千円
- 道路橋りょう補修事業（拡充） 予算額 238,300 千円

新型コロナウイルス感染症にかかる関連事業

新型コロナウイルス感染症にかかる関連事業

感染予防対策

- 新型コロナウイルス感染症対策事業 予算額 4,518 千円
- 新型コロナウイルスワクチン接種対策事業 予算額 40,477 千円
- 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業 予算額 20,966 千円

経済対策

- デジタルクーポン事業 予算額 133,739 千円
- 事業者チャレンジ支援事業 予算額 10,000 千円

■ 市民の皆さまにお伝えしたいこと

「第3次養父市総合計画」と「まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略」を一体化した「養父市まちづくり計画」の策定、新型コロナウイルス感染症拡大・ウクライナ紛争等の国内外の情勢を踏まえ、政策綱領の実現を再出発（あらたなたびだち）と位置付けます。

また、令和臨調共同代表メッセージ（令和4年2月28日）は、正に私の理念と一にすることからご紹介いたします。



養父市にとっての令和臨調 （リファレンスより抜粋）

1. 令和臨調発足趣意書「令和臨調とは何か」

率直な課題認識と解決の大きな方向性を共有した上で、それを実行するアプローチやスキルについて知恵を出し合い、合意形成に努めることが、いま、求められるべき姿である。われわれは、たとえ短期的には苦い薬ではあっても、人びとの長期的利益をビジョンとして可視化し、その実現を可能にする人的・知的・制度的基盤の構築を目指す。

こうしたビジョンに基づく課題解決の方向付けが必要な分野として、われわれは、さしあたり、以下三つのテーマに取り組むことを、ここに宣言する。

第三に、人口減少と超高齢化という現実を直視した新しい「国土構想」である。人口増加を前提とし、ハード面の開発に重きを置いたかつての構想とは一線を画し、個人の自由で多様な生き方を可能にする、「人づくり」と「ネットワークづくり」に重点を置く、ポストコロナ時代の新たな社会の哲学を追求する。デジタル化技術を活かし、エコロジカルな地域の発展や、地域ガバナンスの未来像を示す。

かつてアメリカを旅したアレクシ・ド・トクヴィルは、彼地の民主主義を次のように評した。「頻繁に火の手が上がる。しかし、ひとたび事が起こると人びとは手を差し伸べ、火を消し止める」。

2. 令和臨調の発足にあたっての共同代表メッセージ

日本の民主政には二つの道がある。

第一はこれらが容易に解決できない難問であることを知りつつも事実在即し、知恵の限りを尽くして粘り強く長期にわたって戦い続け、未来に対する責任を民主政の矜持をかけて果たし続ける道である。

第二はかつての経済成長の余剰幻想を引きずりながら眼前の安楽にその都度身を任せ、自己満足のうちに時間を費やすことである。これは日本型ポピュリズムというべきものの一変種に他ならず、世界から忘れられたアジアの一後進国への転落の道である。

日本は大分長い間事実上第二の道に慣れ親しんできた。コロナ禍の今こそこれを逆転させなければならない。そのためには政治の精神を変えなければならない。絶望を希望に変えるために敢えて第一の道に結集しようとする参加者の党派は問うところではない。これは党派を越えた民主政の名誉のための、先進国日本の生き残りのための戦いである。

パンドラの箱はギリシア神話で最も人口に膾炙したものであるが、パンドラの箱はギリシア神話で最も人口に膾炙したものであるが、箱を開けたことによって人間世界にあらゆる災禍がまき散らされ、箱の中に残ったのは希望（エルピス）のみであったという。

詩人ヘシオドスは希望を頼りに生きることになった人間について、準備万端農業に勤しむ人間の抱く希望との対比で、勤勉さに無縁で「空しい望みのかなうのを空頼み」するような人間につきあう希望は「どうせろくな希望ではない」と酷評した。

しばしば、政治は希望を語らなければならないと言われるが、希望の持つ落とし穴を見失わないからこそ民主政の持続可能性の基盤であることは言うまでもない。

3. 令和臨調発足にあたってのメッセージ

「有権者の皆さんへ～私たちがいま、考えるべきこと」

より良い民主主義を可能にするための国や自治体の仕組み、健康で豊かな暮らしのための長期的な展望、一人ひとりの自由で多様な生き方、働き方に支えられた新たな日本社会を今こそ構想し、実現すべきなのです。

現在の私たちにもっとも欠けているのは、自分たちの社会を自分たちの力で変えていけるという自信なのかもしれません。あるいは、その道筋がどれほど厳しいとしても、この社会をより良いものにしていこうとする強い意志を失ってしまったのかもしれません。それは民主主義の危機なのです。民主主義の脅威は外から来るとは限りません。自分が何をしても無駄だ、誰かが何とかしてくれるはずだと思っているならば、それは民主主義の敗北を意味するのです。

4. 令和4年度辞令交付式（訓示）一部抜粋改変

明治の激動の社会を生き抜いた若者たちの群像を描いた司馬遼太郎さんの『坂の上の雲』という小説には、こう記されています。

『この長い物語は、その日本史上類のない、幸福な楽道家たちの物語である』。そしてさらに、『楽道家たちは、そのような時代人としての体質で、前をのみ見つめながらあるく。のぼってゆく坂の上の青い天にもしー一朵の白い雲がかがやいているとすれば、そののみをみつめて坂をのぼってゆくであろう』。

明治維新後、日本の国を背負って立った若者たちのことが書かれています。今の国際社会と日本の国の在り様は、新型コロナウイルスのパンデミック、デジタル技術の急速な進展、さらに国際紛争も勃発しているということで、明治初期の頃と同じような激動の時代に当たるのではないかと考えています。

今の時代、不確実で不安定、多様でそして、曖昧な時代といわれています。このような時代だからこそ、皆で、それこそ楽天的に、「青い空の一朵の白い雲」。これはすなわち養父市でいえば、昨年策定しましたまちづくり計画の「やぶ 2050～居空間構想～」、これのみを見つめて、皆さんと一緒に坂をのぼっていきたいということ考えます。

【リファレンス】

1. 令和臨調発足趣意書「令和臨調とは何か」
2. 令和臨調の発足にあたっての共同代表メッセージ
3. 令和臨調発足にあたってのメッセージ
「有権者の皆さんへ～私たちがいま、考えるべきこと」
4. 令和4年度辞令交付式（訓示）一部抜粋改変